



家庭数 令和6年1月24日(水)

学校だより 第22号

校長 山下 恵子

高槻だより



高槻小学校学校教育目標
「心豊かで 自ら学ぶ たくましい 子どもの育成」

目指す子どもの姿

た かい こころざしをもち か しこく
つ よく き よらかな 子ども

子どもにとって「学んでよかった」学校 保護者、地域にとって「預けてよかった」学校。信頼のおける学校をめざして。

地震避難訓練—土砂災害を想定して—

1月17日水曜日、地震避難訓練を行いました。土砂災害を想定しての訓練を行いました。

能登半島地震の記憶も新しいですが、今から29年前の1月17日に、阪神大震災がありました。この地震では、4600人もの、多くの方が亡くなっています。この阪神大震災では、倒れた家屋の下敷きで亡くなったり、火災で亡くなったりが多かったと聞いています。先日1日の、能登半島地震も、倒れた家屋の下敷きや、土砂災害で、命を落とした方が多くありました。

高槻小学校の周りには、山があり、坂も多くありますので、地震や大雨の災害時に、土砂が崩れる可能性は高いです。

土砂災害の危険が迫った時、身を守るために一番大切なことは「早めに避難する」ことです。しかし、避難する場所や方法がわからないと、すばやく安全に避難することはできません。

子どもたちには、この避難訓練で、避難の場所や仕方を、学級でもしっかりと話しました。災害時に学校であった場合は、体育館、運動場と、その時々避難場所を確認していますが、家にいるとき、外で遊んでいるとき、どこに避難したらいいのか、場所や避難方法を、日ごろからご家庭でも、是非話し合ってください。

子どもたちには、決して一人で行動しないことを約束しました。学校外であるとき、家族と、あるいは友達と、近所の方と、一人で行動せずに、必ず誰かと行動するように伝えてあります。

地震をはじめとした自然災害は、いつ、どこで、どのように発生するかはわかりません。しかし、自分の身の守り方、避難する場所、避難の仕方を、このような機会にしっかりと見直し、いつ災害が起こっても、慌てず、落ち着いて、命が守れるようにすることで、その被害を出来る限り小さくすることが大切です。

ご家庭でも、地震が起こった時に気を付けることは何か、災害に備えてできることは何か、お子さんと一緒に話し合っただけですよう、よろしくお願いします。



給食週間・・日ごろの感謝を込めて・

今から135年前の明治22年、山形県の小学校で、生活が苦しく、お昼を食べられない児童のために、おにぎりと、塩サケ、菜の花の漬物を提供したのが、給食の始まりだといわれています。

その後、給食は各地に広がっていきました。途中、戦争で物資がなくなり、給食は中断しましたが、アメリカからの物資を受け、昭和21年12月11日に再び、給食が再開されました。12月24日を給食に感謝する日と定め、冬休みにかかからない、1月24日から30日までを、全国で給食週間としました。

今では、全国で、その土地の特産物を使ったメニューや、外国の食物がメニューに加わることも珍しくありません。北九州市も、山口県のフグを使った唐揚げや、中学生が考えたレシピなど、多彩で、毎日おいしくいただいています。

給食は、安心、安全に子どもたちが食べられるよう、献立を考えてくださる栄養士の先生をはじめ、食材を届けてくれる業者の方、届けられた食材を、一つ一つ丁寧に検査し、調理してくださる調理師さん、給食指導して下さる担任の先生方、皆さんの給食費を払っていただいている保護者の皆さんと、たくさんの方々が、力を合わせて、このおいしい給食をいただくことができることを、子どもたちに話しました。給食時には、給食図書委員会の子どもたちが、給食に関するクイズやお話をしてくれるそうです。楽しみです。

